2026 年 3 月 2 日

企画展

長野県 150 周年記念／リニューアル・オープン 5 周年記念

再編する－NAM コレクションの現在

2026 年 4 月 29 日（水・祝）－ 6 月 7 日（日）
長野県立美術館 展示室 1・2・3

これまでを読み、これからを編む

長野県立美術館では、 長野県 150 周年およびリニューアル・オープン 5 周年を記念して、企画展「再編する—NAM コレクションの現在」を開催します。

中谷芙二子《Dynamic Earth Series Ⅰ》霧の彫刻 #47610、 2021 年 ©Fujiko Nakaya

平田尚也《Repetition game》2017 年、 作家蔵

2026 年は現在の長野県の誕生から 150 周年にあたります。 同時に、 当館の前身である信濃美術館の開館から 60 年、 そして長野県立美術館として新たなスタートを切ってから 5 年という節目を迎えます。これを記念して開催する本展では、当館の幅広いコレクションをゲストアーティストの作品とともに紹介し、 これまでの当館の歩みを振り返り、 これからの美術館を考えます。

長野県にゆかりのある作家の作品や風景画を中心に始まった当館の収集活動は、近年では国内外の近現代美術へと広がり、多様な表現を受け止めるコレクションへと発展してきました。現在、その所蔵数は 5,800 点余にのぼります。本展は、この長い歩みの中で形づくられた多彩なコレクションを通じて、「これまで」と「これから」の美術館を見つめ直そうとするものです。さらに、ゲストとして平田尚也、Barrack（バラック）（古畑大気＋近藤佳那子）、佐藤朋子の 3 組のアーティストを迎え、彼らの新たな視点とコレクションが響き合うことで、積層した時間や記憶が多面的に立ち上がる場をつくり出します。
当館のこれまでを編み直すように、過去の名品から最新の表現までを一望し、これからの美術館がどのように歩みを進めていくことができるのか、思いを巡らせる機会になれば幸いです。

菱田春草《羅浮仙》1901 年頃

▸見どころ

1. 当館初！コレクション × 現代美術

近年、国内の様々な美術館において既存のコレクション作品と現代作家の作品（コレクション外）を組み合わせて、コレクションに新たな視点をもたらそうとする展示が行われています。本展では、当館で初めての試みとして、長野県ゆかりの気鋭の現代作家 3 組 4 名をゲストアーティストとして招へいし、各セクションに設けられたテーマに沿って 1 組ずつ紹介します。それぞれの現代作家が本展に合わせて制作する作品と、コレクション作品とが呼応する様子をご覧いただきます。

2. 100 点程のコレクション作品を一挙に展観！

当館では、2021 年のリニューアル・オープンに際して「コレクション展示室」を新設し、コレクション作品が常時鑑賞できる環境を整えました。しかし、空間的な制約から出品することが難しいコレクション作品もあります。そこで本展では、企画展示室の広い空間を生かして、普段はなかなか出品できない彫刻・立体作品や大型の平面作品などからも、選りすぐりの作品を展示します。

3. 新収蔵作品を多数紹介！

当館では 2021 年のリニューアル・オープン以降、コレクション・ポリシーの拡張に伴い幅広い作品の収集を進めています。本展に出品するコレクション作品のうち、約 2 割はこの 5 年間で収集したものです。また、今回初めてのお披露目となる作品も多数含まれます。

▶展示構成

Sec.1　彫刻という場

当館の収蔵作品第 1 号、 清水多嘉示《躍進》（1960）、 リニューアル時に常設された中谷芙二子《Dynamic Earth Series Ⅰ》霧の彫刻 #47610（2021）という 2 点の彫刻作品を起点に、 当館の彫刻コレクションを一堂に展観。 ここに、 デジタル技術を用いて彫刻作品を手掛ける平田尚也を加え、 彫刻の現在地、 さらには美術館の収蔵のあり方を考察します。

Sec.2　見ることの層

「描くこと／見ること／残すこと」を媒介する領域として絵画、 平面を取り上げ、 描かれた平面がいかに見る者の視線を受け止め、 その画面の奥行きにいかなる時間が積層しうるのかを検討します。 多彩な平面コレクションに加え、 風景や日常的な場面をモチーフに、 絵画の多層性を志向する Barrack（古畑大気＋近藤佳那子）の作品を展示します。

Sec.3　歴史を再読する

個別の作家やコレクション群から複数の作品を取り上げながら、 美術館の歴史をふりかえります。 池田満寿夫が 1951 年に現・美術館所在地で「原爆の図」を見た記録や、 松澤宥が前身館にて自主展を開催した事実、「原爆の図」展示の新潟開催を組織した上野誠などをきっかけに、 個人と制度、 記憶と記録が交錯する時間をたどります。 また、 佐藤朋子による地域史と美術館前史を結びつける映像インスタレーションを展示します。

戸谷成雄《射影体》2004 年　撮影：山本糾

松澤宥《プサイの意味—ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960 年

▶主な展示作品

【NAM コレクション】

荻原碌山《坑夫》1907 年

Sec.1

- 清水多嘉示《躍進》1961 年、ブロンズ、h46.0cm
- 荻原碌山《坑夫》1907 年、ブロンズ、h47.0cm
- 戸谷成雄《射影体》2004 年、木・灰・アクリル、190.0×310.0×67.0cm
- 土谷武《一隅から》1984 年、コルテン鋼・チーク、250.0×178.0×130.0cm

Sec.2

- 小松崎広子《平面の中のジグザグ形 B-34》1993 年、油彩・カンヴァス、227.5×182.0cm、個人蔵
- オノサト・トシノブ《58-A》1959 年、リトグラフ・紙、13.5×20.8cm
- 菱田春草《羅浮仙》1901 年頃、紙本着色、124.5×69.5cm
- 丸山晩霞《初夏の志賀高原》1909 年頃、水彩・紙、67.0×101.0cm

Sec.3

- 池田満寿夫《真昼の人々》1955 年、油彩・カンヴァス、88.4×117.0cm
- 松澤宥《プサイの意味—ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960 年、パステルほか・紙、各 84.0×84.0cm（9 点組）
- 上野誠《掌上のはばたき》1964 年、木版・紙、57.1×38.3cm、ひとミュージアム上野誠版画館蔵
- 村山槐多《猫を抱ける裸婦》1916 年、木炭・紙、61.4×46.5cm、信濃デッサン館コレクション
- 野田英夫《初冬》1932 年、油彩・カンヴァス、40.5×51.2cm、信濃デッサン館コレクション

※ゲストアーティストは新作を中心に展示します。

古畑大気《add hermit mine (root of hot water)》2025 年、作家蔵

近藤佳那子《bye bye》2022 年、作家蔵　撮影：城戸保

▶出品作家（順不同）

池田満寿夫《真昼の人々》1955 年

【NAM コレクション】
Sec.1｜清水多嘉示、 荻原碌山、 戸谷成雄、 土谷武ほか
Sec.2｜小松崎広子、 オノサト・トシノブ、 菱田春草、 丸山晩霞ほか
Sec.3｜池田満寿夫、 松澤宥、 上野誠、 村山槐多、 野田英夫ほか

【ゲストアーティスト】

Sec.1

■平田尚也［ひらた・なおや］

1991 年長野県生まれ。 2014 年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。
空間、 形態、 物理性を主題とし、 インターネット上で収集した既存の 3D モデルや画像を素材として扱う。 アッサンブラージュの手法を基盤に、 PC 内部の仮想空間で再構築した彫刻を現実世界へと投影・展開する制作を行っている。 仮想的な像（仮像）を用いることで、 既存の秩序とは異なる条件下で成立するもう一つのリアリティを提示し、 複数の「あり得たかもしれない世界」のバージョンを試すことで、 現実世界における事物同士の関係性や存在の前提を問い直している。 主な個展に、「仮現の反射（Reflections of Bric-a-Bracs）」（資生堂ギャラリー、 2025）など。 2019 年「群馬青年ビエンナーレ 2019」ガトーフェスタ ハラダ賞受賞。

Sec.2　Barrack（古畑大気＋近藤佳那子）

■古畑大気［ふるはた・たいき］

1987 年長野県生まれ。 2014 年愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程油画・版画領域修了。
路上観察のようなことをしてメモ的に写真を撮り、 パソコンで線と色面のみのドローイングをしてからキャンバスにタブロー化、 もしくはそのままターポリンなどに出力する。 何かしらの構造物や建築物などを観察対象とする。 主な活動に、 国際芸術祭「あいち 2025」（愛知県陶磁美術館、 2025）、「瀬戸現代美術展 2025」（愛知、 2025）の企画・参加、 グループ展に「VOCA 展 2025 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」（上野の森美術館、 2025）など。

■近藤佳那子［こんどう・かなこ］

1987 年三重県生まれ。 2014 年愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程油画・版画領域修了。
日々の繰り返しと進んでいく力、 回る季節、 制作と労働、 共感と拒絶、 私と他者、 向こうとこちら、 繋がりと分断、 地と図、 などの事柄から絵画を制作する。 主な活動に、 国際芸術祭「あいち 2025」（愛知県陶磁美術館、 2025）、「瀬戸現代美術展 2025」（愛知、 2025）の企画・参加、 グループ展に「VOCA 展 2025 現代美術の展望ー新しい平面の作家たち」（上野の森美術館、 2025）など。

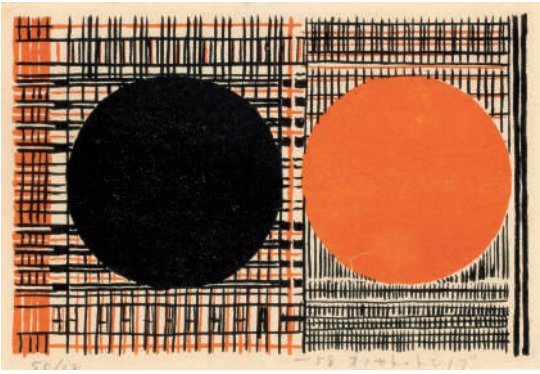
※Barrack［バラック］…2017 年愛知県にて結成。 近藤佳那子と古畑大気によるアートユニット。 愛知県瀬戸市でカフェとギャラリーの機能を持つ「Art Space & Cafe Barrack」を運営。 月毎の企画展に加え、 トーク、 ライブ、 ワークショップなども開催。 また、 Barrack としてアートイベントやプロジェクトに参加し、 自主企画も行う。 美術・食・歴史・音楽・造形教育といった多層的な要素を取り込みながら、 人との関わりの中で作品やスペースを展開する。

Sec.3

■佐藤朋子［さとう・ともこ］

1990 年長野県生まれ。 2018 年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。
広範なリサーチをもとに物語を構築し、 レクチャーや語りを軸に芸術実践を展開している。 近年の活動に、《オバケ東京のためのインデックス》（シアターコモンズ、 2021-）、 第 14 回恵比寿映像祭（東京都写真美術館、 2022）、「公開制作 vol.2 狐・鶴・馬」（長野県立美術館、 2022）、「ニュー・ユートピア──わたしたちがつくる新しい生態系」（弘前れんが倉庫美術館、 2025）など。 令和 5 年度ポーラ美術振興財団在外研修員として台湾と韓国にて研修。

佐藤朋子《Song for the Fox, August 2022 Version》2022 年、 作家蔵
撮影：蓮沼昌宏



オノサト・トシノブ《58-A》1959 年

【開催概要】

展覧会名：長野県 150 周年記念／リニューアル・オープン 5 周年記念
再編する — NAM コレクションの現在
会　　期：2026 年 4 月 29 日（水・祝）— 6 月 7 日（日）
会　　場：長野県立美術館 展示室 1・2・3
開館時間：9:00—17:00（展示室入場は 16:30 まで）
休 館 日：水曜日（ただし 4/29（水）、 5/6（水）は祝日のため開館）、 5/7（木）
主　　催：長野県、 長野県立美術館
共　　催：長野県教育委員会
後　　援：長野市、 長野市教育委員会、 長野商工会議所、 善光寺、 長野県芸術文化協会、
長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、
JR 東日本 長野支社、信濃毎日新聞社、SBC 信越放送、NBS 長野放送、TSB テレビ信州、
abn 長野朝日放送、 FM 長野、 INC 長野ケーブルテレビ
観 覧 料：一般 1,000（900）円、 大学生及び 75 歳以上 800（700）円、 高校生以下又は 18 歳未満無料
※コレクション展［本館・東山魁夷館］との共通料金：一般 1,500 円、 大学生及び 75 歳以上 1,100 円
※（ ）内は 20 名以上の団体料金　※割引の併用不可
※身体障害者手帳、 療育手帳、 精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付き添いの方 1 名は無料
※長野県内の大学等に通う学生は無料（詳細は当館ホームページ参照）

【関連イベント】

1. アーティストトーク

① 平田尚也　5 月 3 日（日・祝） ゲスト｜金井直（信州大学人文学部教授）

② 佐藤朋子　5 月 4 日（月・祝）

③ Barrack（古畑大気＋近藤佳那子）5 月 5 日（火・祝）

・時間｜各回 14:00 ～ 15:00

・会場｜長野県立美術館 本館 1 階 交流スペース

・定員｜各回 30 名

・参加費｜無料　※要申込（4/3（金）9:00 ～当館 HP イベントページにて受付開始）

2. 佐藤朋子 ウォーキングツアー

作家による語りを聞きながら、 美術館周辺を歩くツアーです。

・月日｜5 月 4 日（月・祝）、5 月 6 日（水・休）

・場所｜美術館周辺（予定）

・参加費｜無料　※要申込（4/16（木）～当館 HP イベントページにて受付開始）

3. 出張 Barrack

愛知県瀬戸市の Art Space & Cafe Barrack が出張します。

飲み物を片手に、トークイベントなどをお楽しみいただけます。

・月日｜5 月 4 日（月・祝）、5 月 5 日（火・祝）

・時間｜未定

・会場｜本館 1 階 交流スペース　※入場無料、 申込不要

4. 担当学芸員によるギャラリートーク

・日時｜5 月 24 日（日） 14:00 ～

・会場｜展示室 1・2・3 ※展示室 1 にお集まりください

・参加費｜無料　※要観覧券、 申込不要

上野誠《掌上のはばたき》1964 年、
ひとミュージアム上野誠版画館蔵

※イベントの内容は変更になる場合があります。 詳細は美術館 HP 各イベントページにてご確認ください。

■報道関係のお問い合わせ
長野県立美術館　広報・マーケティング室　〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4（善光寺東隣）
TEL：026-232-0052　FAX：026-232-0050　E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp

「再編する―NAMコレクションの現在」 広報用画像

【会期：2026年4月29日（水）～ 6月7日（日）/会場：長野県立美術館（展示室1・2・3）】

■本展の広報用画像を用意しております。別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえお申込みください。
画像（JPEG）はデータにてお送りいたします。

1. 荻原碌山《坑夫》1907年

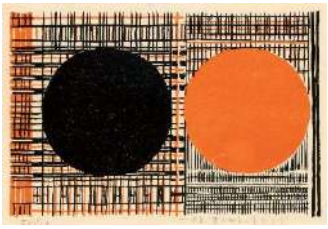
2. 戸谷成雄《射影体》2004年
撮影：山本糾

3. 中谷芙二子《Dynamic Earth Series Ⅰ》霧の彫刻 #47610、2021年　©Fujiko Nakaya

4. 平田尚也《Repetition game》2017年、作家蔵

5. 小松崎広子《平面の中のジグザグ形B-34》1993年、個人蔵

6. オノサト・トシノブ《58-A》1959年



7. 菱田春草《羅浮仙》1901年頃

8. 丸山晩霞《初夏の志賀高原》1909年頃

9. 古畑大気《add hermit mine (root of hot water)》2025年、作家蔵

10. 近藤佳那子《bye bye》2022年、作家蔵　撮影：城戸保

11. 池田満寿夫《真昼の人々》1955年

12. 松澤宥《プサイの意味―ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960年

13. 上野誠＜掌上のはばたき＞1964年、ひとミュージアム上野誠版画館蔵

14. 村山槐多《猫を抱ける裸婦》1916年（信濃デッサン館コレクション）

15. 佐藤朋子《Song for the Fox, August 2022 Version》2022年、作家蔵　撮影：蓮沼昌宏

16. 野田英夫《初冬》1932年（信濃デッサン館コレクション）

＜別紙＞

広報用画像申込書「再編する―NAMコレクションの現在」

E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp　　FAX: 026-232-0050

■ 広報用画像（ご希望の画像にチェックを入れてください。）

✔	No.	【ご掲載時に必要なキャプション、クレジット表記】
☐	1	**荻原碌山《坑夫》1907年**
☐	2	**戸谷成雄《射影体》2004年　撮影：山本糾**
☐	3	**中谷芙二子《Dynamic Earth Series Ⅰ》霧の彫刻 #47610、2021年　©Fujiko Nakaya**
☐	4	**平田尚也《Repetition game》2017年、作家蔵**
☐	5	**小松崎広子《平面の中のジグザグ形B-34》1993年、個人蔵**
☐	6	**オノサト・トシノブ《58-A》1959年**
☐	7	**菱田春草《羅浮仙》1901年頃**
☐	8	**丸山晩霞《初夏の志賀高原》1909年頃**
☐	9	**古畑大気《add hermit mine (root of hot water)》2025年、作家蔵**
☐	10	**近藤佳那子《bye bye》2022年、作家蔵　撮影：城戸保**
☐	11	**池田満寿夫《真昼の人々》1955年**
☐	12	**松澤宥《プサイの意味―ハイゼンベルクの宇宙方程式に寄せて》1960年**
☐	13	**上野誠《掌上のはばたき》1964年、ひとミュージアム上野誠版画館蔵**
☐	14	**村山槐多《猫を抱ける裸婦》1916年（信濃デッサン館コレクション）**
☐	15	**佐藤朋子《Song for the Fox, August 2022 Version》2022年、作家蔵　撮影：蓮沼昌宏**
☐	16	**野田英夫《初冬》1932年（信濃デッサン館コレクション）**

■貴媒体についてお知らせください。

貴　社　名：		
媒　体　名:	（雑誌、番組名等）	
掲載・放映予定日	月　　日（　　）　発行　、放送予定	
ご担当者名：		E-mail：
連　絡　先：	TEL：	FAX：

※掲載紙・誌を１部ご恵贈いただければ幸いです。

■報道関係のお問い合わせ
長野県立美術館　広報・マーケティング室　　〒380-0801長野市箱清水1-4-4（善光寺東隣）
TEL：026-232-0052　FAX：026-232-0050　E-mail：nam-pr@naganobunka.or.jp